

## <基本情報>

所在地：福岡県うきは市浮羽町

## <農場概要>

- 茶園場7ha、全て有機JAS認証を取得
- 常時雇用4名（生産2名、店舗2名）臨時雇用5名
- **平成12年有機JAS認証（農産物、加工食品）取得**



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和30年代に祖父が茶生産を開始。引き継いだ両親が農薬散布などの影響で体調不良となったことから、昭和48年に思い切って農薬を一切使用しない栽培方法に切り替えた。

## <販売について>

- 荒茶の2割が卸販売、残り8割は自社で商品化し、自社販売店、道の駅、百貨店、インターネット及びイベント等で販売。今年開業したワンビル（福岡市）内の店舗でも取り扱われるなど都市部からの引き合いが多く、販売額は順調に伸びている。
- 令和6年度の売上高は、法人化した**平成25年度の約1.8倍**。
- 19品種を栽培しているが、5品種はブレンドせずに「シングルオリジン」として販売。
- 平成28年から輸出にも取り組み開始。現在の輸出先はスイス、ドイツ、オーストラリア、台湾。

## <自社販売について>

- 平成7年に自社店舗をオープン。平成25年古民家を改装した現店舗に移転し、自社販売を行っている。近隣に建設された外資系ホテルの宿泊客が買い物に来るなど日本人だけではなく海外観光客の取り込みにも成功している。



地元の棚田をイメージした商品棚

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
昭和48年当時は、にんにくや木酢を害虫予防として散布していたが、風通しが良く、湿度も低めになる条件を活かして現在は何も行っていない。
- **雑草対策**  
春や秋は草刈り機などで刈り取っているが、夏場はつる性の雑草など、根や球根を1本1本手取りしている。
- **土づくり**  
堆肥に微生物を入れて発酵させる「ボカシ肥料」を手作業で施している。



圃場は標高400~500m

## <苦労しているところ>

- 夏場の猛暑の中での手作業による草取りが一番大変。また、近年は異常気象で12月まで草取りが必要だが、お客様に安心して購入して頂くためには避けて通れない。
- 単収は、慣行栽培の約半分、生葉で300kg~350kg程度。

## <今後の展開>

- 有機栽培の維持と品質保持に注力し、消費者の信頼を維持することが最も重要であり、無理な拡大よりも着実な運営を重視していきたい。

## <基本情報>

所在地：佐賀県嬉野市嬉野町

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場約4ha（茶）
- 蒸し製玉緑茶、煎茶、ほうじ茶、粉末緑茶、紅茶を使用した13商品を製造販売。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 当茶園は、約37年前、父が茶本来の味と茶の効用を追求し、当時では珍しかった有機栽培に転換。
- 面積を2.7ha（H14）から4ha（R7）へ拡大
- **平成18年（2006年）に有機JAS認証取得。**



## <販売について>

- 小売り販売で生産量の8割を販売。
- 蒸し製玉緑茶をはじめ、煎茶、粉末緑茶、ほうじ茶及び紅茶を製造販売。近年は、ボトルティー商品など開発。



## <嬉野茶のPR活動>

- 地元の茶農家や旅館、窯元からなる「嬉野茶時（うれしのちゃどき）」の活動に参加。茶畑に設置した茶空間にて、肥前吉田焼の茶器を用いて、自身が育てたお茶を、自らお客様に淹れてもてなす茶空間体験を実施。



## <病虫害対策・除草対策・土づくり>

- **病虫害対策**  
地域の野草（よもぎ・どくだみ・杉・松・こしょう）などを熟成させた薬液を使用。薬液は忌避効果が高く、害虫もほとんど殺さないため、地域の生態系への影響が少ない。
- **雑草対策**  
除草剤を使用せず、人力のみ。
- **土づくり**  
地域の副産物である水飴の絞りカス、米ぬか、炭などをブレンドし、好気性微生物や嫌気性微生物により発酵させた有機自家製肥料を使用。



## <苦労しているところ>

- 人力での除草作業。

## <今後の展開>

- 有機農業技術をさらに高め、収穫量の安定と品質向上を目指す。
- 多くの方にお茶を楽しんで頂き、地域の発展に結びつくような幅広い活動を行う。



## <基本情報>

所在地：長崎県北松浦郡佐々町

## <農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場約8.3ha（茶）
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



香港での販売



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和44年から消費者からの「無農薬の茶を作ってほしい」という要望に応え、全茶園で、農薬不使用の栽培を始め、昭和50年からは化学肥料・化学農薬を全く使用しない有機栽培による茶の生産・販売を開始。
- 平成13年（2001年）に有機 J A S 認証を取得。
- 令和7年（2025年）にUSDA(アメリカ農務省)有機認証を取得。

## <販売について>

- 有機栽培茶の特徴を活かして幅広く販路を拡大。
- 平成28年に香港へ輸出を開始し、翌年、ニューヨークにおける店舗販売及びインターネット販売を開始、現在、ヨーロッパ、台湾等へ輸出先を拡大。
- 消費者や取引業者を対象に「茶摘み会」等を開催し、茶園の見学をしてもらうことで、有機栽培の信頼を高め顧客増加を実現。
- 顧客や企業が求める新商品の開発に取り組み「十宝草」のペットボトル等を開発。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
食酢の葉面散布により害虫の忌避を図り、茶樹の耐病性の向上を実現。
- **雑草対策**  
草刈り機や人手による除草。
- **土づくり**  
新・改植には、土壌分析を実施し、堆肥、稲わら、カヤを投入することで、茶園の排水性・物理性を向上。施肥回数を慣行栽培より多くすることで、肥料の吸収率を向上。



## <苦労しているところ>

- 除草作業や整せん枝による耕種的防除に長時間費やすこと。

## <今後の対応>

- 地域に根ざした物づくり（茶づくり）が重要だと考えており、地域の農業者や商工業者と連携して組織（輸出グループ、有機グループ等）を作り、茶以外の農産物を含めた新たな商品開発や組織での販売を行うことで、地域を盛り上げて行きたい。



【お問合せ先】TEL.0956-63-2707

会社ホームページ：<https://kitamura-seicha.jp/>

## <基本情報>

所在地：長崎県五島市吉久木町

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場26ha（茶8ha、レモングラス3ha、転換中15ha）
- 有機緑茶、有機五島つばき茶、有機レモングラスを生産・加工



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 約10年前に台風による潮風害（塩害）に遭い、茶葉がひどく褐変し、茶園が枯れたようになった。知人である有機農業者の助力により、複数の発酵乳酸菌をブレンドした有機土壌改良資材をほ場に投入したところ、翌年には、茶園が回復。これを機に有機栽培に転換し、**平成28年（2016年）に有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- 販売部門として平成13年に「有限会社グリーンティ五島」設立。
- 生産量の8割は、京都の茶商（海外向け取扱が主）へ販売。
- 生産量の2割は、ネット販売や島内のスーパー等小売店への直接販売。販売額の6割を直接販売が占める。
- 緑茶、紅茶のほか、自生するヤブツバキの葉と、緑茶をブレンドした「つばき茶」や「ハーブ（レモングラス）」を販売。レモングラスは、カステラの原料やクラフトビール、大手スーパーのプライベートブランド茶系飲料の材料として提供。

## <収量等について>

- 有機栽培に取り組んだことにより、300kg/10aであった秋番茶の収量が3倍近く獲れることもある。
- 有機栽培をはじめめる前は、防除費に数百万円要していたが、現在は、10万円を要しない程度で済んでいる。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
土づくりをしっかりと行うことで、作物が丈夫に生育するので、たまに食酢を散布している。
- **雑草対策**  
草刈り機及び手作業で除草。
- **土づくり**  
牛ふん堆肥及び豚ふん堆肥にフルボ酸と発酵乳酸菌をブレンド（腐葉土に近い土づくりを目指す）し、茅を混ぜ込み、十分に発酵させ完熟した堆肥を10aに年3回（1t/回）程度散布している。



## <苦労しているところ>

- 除草作業は、草刈り機及び手作業で行っているが、つる性の雑草は、なかなか根元から取れないところ。



## <今後の展開>

- ネット販売等の直接販売の割合を増やしながら、取引相手から望まれる数量を確保し、新たな商品の提案や製造を行っていききたい。
- これまでは、「生産」に注力してきたが、「加工」にも力を入れ、両輪の連携をさらに高めたい。



【お問合せ先】TEL. 0959-72-4426

ホームページ：<https://greentea-goto.com/>

## <基本情報>

所在地：大分県臼杵市野津町

## <農場概要>

- 面積：6.0ha（うち有機：6.0ha）
- 従業員：9名
- 栽培品目：茶（生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 40年程前、先代が茶畑に農薬散布中、ホースがはずれ全身に農薬をかぶってしまい、体調を崩したことをきっかけに農薬を使わない有機茶栽培を開始。
- **平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得(大分県第1号)**

## <販売について>

- 自社工場、インターネットでの販売に加え、消費者に直接販売できるよう地元デパートに卸し販売している。
- 平成19年から香港やアジア圏に向け輸出を試行したが、オーガニックの認知度が低い等、継続的な取引に至らなかった。
- 平成27年からオーガニック志向がより高い欧米へ販路を変更。現在はフランスを中心にEU及び米国に輸出している。
- 令和5年には、茶園を一望できる場所にカフェをオープンし、緑茶のほか、抹茶、和紅茶、ほうじ茶、GABA茶やスイーツなどを提供。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
  - ・ 夏場に多発する炭疽病やハダニ等の対策として、二番茶収穫後に深刈りをして古い葉を落とし樹の若返りを図っている。
  - ・ 農薬は有機JASで認められているものであっても、使用せず強いこだわりを持って農薬を使用しない栽培を実践している。
- **雑草対策**

有機栽培では雑草処理が一番大変であり（特に幼木の頃）、直接シニア世代の方に除草作業を委託している。
- **土づくり**

独自のノウハウで配合した油かすや魚粉かすなどの有機質肥料は分解が遅いため、成分が効いて欲しい時期に最大限の効果が出るように施肥のタイミングに気をつけ、早めの施肥を心がけている。

## <苦労していること>

- 規模拡大を進めたが、除草作業などを任せられる責任者や作業員等の人材確保が課題。

## <今後の対応>

- 主力商品である有機緑茶に加え、抹茶、紅茶、GABA茶、ゆずやかぼすを緑茶に配合したフレーバー茶など特色のある商品を国内外へ展開していきたい。

【お問合せ先】 Tel. 0974-32-4219

会社ホームページ <https://www.tkhs-cha.com/>



## <基本情報>

所在地：宮崎県日之影町

## <農場概要>

- 面積：茶5.3ha（全て有機JAS認証を取得）
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立
- 労働力：代表夫妻、父、正社員等10人



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 先代の父が行っていた茶栽培を、全て無農薬・無化学肥料の有機茶栽培に切り替えることを条件に、現代表が平成4年（1992年）に就農。
- その後、徐々に有機栽培を進め、平成15年（2003年）に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 販売量は年間約16トン。殆どが釜炒り茶で他に紅茶、烏龍茶を製造。
- 販売先は直販が7割で、その他はJA等。
- 人口減少による国内茶市場縮小が進む中、更なる販売拡大を見据え海外輸出にも取り組む。現在の主な輸出国はカナダ及び欧州。
- その他、消費者の多様なニーズを踏まえ、ティーパック茶、粉末茶等の商品を開発して販売。



【お問合せ先】 Tel. 0982-87-2643 Fax. 0982-87-2648  
ホームページ：<http://www.issin-en.com/>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
  - ・病害虫に弱い品種（やぶきた）から病害虫に強い品種（さえみどり、かなやみどり、みやまかおり等）へ品種分散。
  - ・2番茶収穫後、適正な時期に剪枝を行い、病気の発生を抑制。
- **雑草対策**
  - ・中熟の草堆肥を畝間に敷くことで雑草を抑制。
- **土づくり**
  - ・ススキ等の草と焼酎かすを利用した自家製発酵草堆肥やなたね油粕・米ぬかを発酵させた肥料を施用し、高品質な有機茶生産を実現。
  - ・圃場ごとに年1回の土壌診断を必ず行い、微量要素の状況を確認し、適切なミネラルバランスを取り、栽培土壌の最適化を図っている。

## <苦労しているところ>

- 急傾斜地での茶摘みや除草作業が重労働になっている。特につる性の雑草や宿根性のヤブガラシなどの除草に苦労。

## <現場の課題>

- 気候変動に伴う夏場の作業における暑さ対策。

## <今後の展開>

- ハーブ等のブレンドティーの開発やお茶に関する体験イベントなど、新たな取組に挑戦中。



## <基本情報>

所在地：宮崎県五ヶ瀬町

## <農場概要>

- 面積：15.5ha { 有機JAS認証ほ場 14ha  
有機転換期間中 1.5ha
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 知人の農薬による事故を契機に、前代表が無農薬・無化学肥料栽培の必要性を感じ、五ヶ瀬の冷涼な気候や標高の高い立地条件を生かした有機茶栽培を昭和58年（1983年）開始。
- **平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- 有機JAS認証品を販売。釜炒り茶が主体でその他、紅茶、烏龍茶、番茶。
- 販売先はネット販売・直売所・JA等。
- 今後、国内の人口減少による茶市場縮小が考えられる中、更なる**販売拡大を見据え海外輸出にも取り組む**。輸出国はドイツ、ベルギー、チェコ、スイス、カナダ、アメリカ。



【お問合せ先】TEL. 0982-82-0211

ホームページ：<http://www.miyazaki-sabou.com/>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
  - ・病害虫に弱い品種（やぶきた）から抵抗性のある品種（みなみさやか、はるのなごり等）へ改植中。
  - ・施肥量を少なくすることで、病害虫の発生要因となる葉の密生を抑制。（標高約650mで冷涼地のため害虫は少ない）
- **雑草対策**
  - ・草刈り機と人手による除草。（特に8月～10月）
- **土づくり**
  - ・畝間に茶の刈り捨て葉を撒き豚ふん堆肥を施用。
  - ・追肥は肉かすとごま油かす。

## <苦労しているところ>

- 有機栽培は除草が重労働になるため、自動草刈り機に関心。

## <現場の課題>

- 有機栽培茶の流通量が増えることによる価格低下が心配。

## <今後の展開>

- 消費者・バイヤーのニーズを把握し、販売先を多様化していきたい。また、15.5ha全てに有機JAS認証を取得し、有機茶の生産量を確保することで、輸出の拡大を目指す。



## <基本情報>

所在地：鹿児島県霧島市

## <農場概要>

- 茶27ha、全て有機栽培
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立
- 平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 平成5年（1993年）、茶の価格が低迷する中、茶に付加価値を付けるため、霧島山麓の冷涼な気候や標高の高い台地の地条件を生かした有機茶栽培を開始。

## <販売について>

- 販売する全商品が有機JAS認証品。
- 茶の市場が低迷する中、国内の茶市場では販売先の限界を感じ、平成27年（2015年）、ドイツに「KIRISHIMA UG」（欧州支店）を設立。
- 現在、年間約8t（生産量の約2割）をEUを中心に輸出。海外での日本茶ブームもあり、輸出量も増え、安定した価格で取引を実現。
- 国内でも有機茶として有利販売を実現。



【お問合せ先】TEL.0995-45-0036

会社ホームページ<http://kirishimacha.web.fc2.com/index.html>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

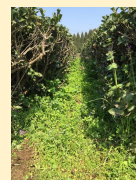
- **病害虫対策**  
病害虫に弱い品種（やぶきた）から病害虫に強い品種（あさのか、かなやみどり）へ転換することにより、無農薬栽培を実現。
- **雑草対策**  
メインは草刈り機による除草+人手による除草。
- **土づくり**  
茶のおいしさは肥料の投入量と比例するため、家畜糞に米ぬか・粃殻・菜種油粕・鯉ソリュブル・糖蜜を混ぜた自家製有機堆肥により、高品質な有機茶生産を実現。

## <苦労しているところ>

- 有機農業は草との戦い。除草作業が軽減できるよう、茶園で使える自動草刈り機の実用化に期待。

## <今後の展開>

- 山林の開墾や耕作放棄地を活用し、生産面積を50haへ規模を拡大。



除草前



除草後



## <基本情報>

本部所在地：鹿児島県鹿児島市五ヶ別府町

## <農場概要>

- 構成員：162戸（有機JAS取得102戸）、職員45名、パート30名
- 面積：275ha
- 栽培品目：約120品目（有機野菜、果樹、茶など）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

大和田前代表ご夫妻が大学在学中に公害問題に関心を持ったことをきっかけに有機農業の道に進み、昭和55年（1980年）鹿児島市で就農し有機生産を開始。昭和59年（1984年）に有機生産組合「かごしま有機生産組合」を10戸で設立。

## <販売について>

- 直営店「地球畑」が県内に3店舗と有機野菜の食べ方の提案も兼ねた地球畑カフェ「草原をわたる船」。



- 全体の3割は直営店舗で、その他の主な出荷先は「オイシックス・ラ・大地株式会社」、(株)ビオ・マーケットを通じた宅配やスーパーマーケットへの卸、コープ九州、その他の生協等。
- 毎年3~4回首都圏のマッチングフェアに参加。
- 平成30年（2018年）4月に海外事業部で輸出事業をスタート。
- 4~5年前から人参ジュース・りんご人参ジュースやごぼう茶・黒糖生姜湯を開発、ベビーフードの開発では、平成30年（2018年）に鹿児島県特産品協会理事長賞を受賞。

## <特色ある活動>

- 新規就農者のための研修施設「有機農業支援センター」があり有機苗の供給も行う。

- オーガニックフェスタ（毎年5万人の来場者）を開催・出展。
- 平成29年（2017年）からネパールへの技術支援も開始。

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

生産体制強化のために品目部会及び地域毎の支部会、年2回の作付会議やフォーラム（講習会・分科会）を行ない、経営力向上と栽培技術の共有等を行う。

- **病害虫対策**  
土着天敵の活用や適期の播種、コンパニオンプランツの活用。
- **雑草対策**  
太陽熱処理の活用、緑肥の活用。
- **土づくり**  
土壌分析に基づき、土壌の肥沃度を高めることを優先課題とし、近年は特に緑肥の利用に取り組む。

## <苦労しているところ>

- 物流コストと資材コストの高騰。



## <今後の展開>

- 有機農産物への国内ニーズと海外ニーズの高まりに対応した生産体制の構築と面積の拡大。

【お問合せ先】TEL. 099-282-6867  
生産組合ホームページ <http://kofa.jp/>



## <基本情報>

所在地：鹿児島県熊毛郡屋久島町

(令和2年度九州地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール九州農政局長賞受賞)

## <農場概要>

- 経営面積6.6 ha (全て有機JAS認証取得、栽培品目は茶)
- 平成29年(2017年)に取得したASIAGAPを今後JGAPに変更予定。
- 従業員：10名(代表含む)



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 屋久島で育った高校の同級生3人が島外から島に戻った際に、3人で出来る仕事を模索する中、島がお茶づくりに最適な土地であるとの話を聞き、平成7年(1985年)に会社設立。1.2haの農地を取得。
- 営農開始時から、有機栽培を開始し、平成13年(2001年)に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 静岡県の茶商との荒茶の年間契約により、安定した販路確保に努めつつ、一番茶は、自社ホームページを介して全国の消費者、飲食店、小売店等へ直接販売。
- 平成24年(2012年)に輸出開始し、平成26年(2014年)から本格的にEUの有機茶問屋へ仕上げ茶を輸出。EUオーガニック認証で販売。
- 平成10年(1998年)に直売店を開設し、リーフ茶を中心に抹茶ソフトクリームや茶そば等の加工品を製造・販売するのに加えて、島内の他事業者の商品も取り扱うことで、島内の顧客及び観光客を確保。



## <情報発信について>

- 自社HPやSNS(hachimanjyu\_tea)等で、世界自然遺産である屋久島と有機茶とのつながりや魅力を発信中。

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
農薬は一切使用せず、蓑虫等が発生した場合は、手作業で取り除く。
- **雑草対策**  
草刈り機や人手による除草。
- **土づくり**  
毎年、土壌診断を実施し、診断結果をもとに施肥量を調整。  
堆肥は、山野草堆肥を使用している。敷きわらを毎年行うことで、土壌生物の多様性確保に務める。



## <苦労しているところ>

- ほ場周辺を杉林に囲まれており、年に何度もある台風の上陸・接近に伴い、杉の葉が大量に茶畑に飛来するため、手作業での除去に手間がかかる。



## <今後の展開>

- 世界自然遺産屋久島の自然を守りながら、人と自然が共生する社会を後生に残すことに貢献したい。
- 今後、島内外の有機農業者、有機関連事業者などとの連携を深め、屋久島のオーガニック化を目指す。

【お問合せ先】TEL. 0997-43-5330

ホームページ<http://hachimanjyu.com>